

第40回岩手県フォークリフト運転競技大会 実 施 要 綱

1. 目 的

フォークリフト運転競技を通じ、遵法精神と安全意識の高揚及び運転の知識と技能の向上を図り、もって職場における安全作業の確立と労働災害防止の推進に資することを目的とする。

2. 主 催

陸上貨物運送事業労働災害防止協会・岩手県支部

3. 後 援

陸上貨物運送事業労働災害防止協会
公益社団法人 岩手県トラック協会

4. 競技部門

「一般の部」並びに「女性の部」とする。

5. 実施期日

- ① 学科競技 令和 7年 6月28日(土) 10:30～
- ② 点検及び運転競技 7月26日(土) 8:30～

【※ 詳細は別途お知らせ致します。 また、7月26日の昼食は、当支部で用意します。】

6. 実施場所

- ① 学科競技 ドラコン県大会の学科会場と同じ
(矢巾町・金ヶ崎町・久慈市の予定)
- ② 点検及び運転競技 盛岡市下田字仲平183
『岩手県自動車運転免許試験場』

7. 参加資格

参加推薦日において、次のいずれにも該当する者とする。

- (1) 当支部会員事業場〔(公社)岩手県トラック協会・会員〕の従業員で、勤務成績が優秀であり、且つ、フォークリフト運転技能講習修了後1年以上経過していること。
- (2) フォークリフト又は自動車の運転により、過去1年間事故を起こした事がないこと。
但し、人身事故については、過去3年間(フォークリフト運転技能講習修了又は自動車運転免許取得後の期間が3年に満たない者については、当該3年に満たない期間)事故を起こしたことがないこと。

8. 参加費

参加費は、無料とする。

9. 参加目標人員

参加目標人員は、「一般の部」は20名とする。

「女性の部」は 5名とする。

10. 競技種目及び配点

競技種目は、学科・点検及び運転の3種目とし、配点は、学科300点・点検100点・運転600点、合計1,000点とする。

(1) 学 科

・出題は、50問とし、正誤方式とする。

・出題科目並びに科目ごとの問題及び配点は、次の表のとおりとする。

区 分		問題数	配 点
科 目			
走行に関する装置の構造、取扱い方法		10	60
荷役に関する装置の構造、取扱い方法		20	120
運転に必要な力学		10	60
関係法令		10	60
合 計		50	300

・制限時間は、40分とする。

(2) 点 検

① 競技要領

荷役運搬作業の安全性を確保するための「作業開始前点検」を主体として行う。

フォークリフトにあらかじめ設定した不良箇所を競技者に発見させて報告をさせる方法とし、減点方式で採点する。制限時間は5分とする。

② 使用機種

「トヨタ」製の最大荷重1.5トンの『カウンタバランス・フォークリフト』とする。

(3) 運転(走行及び積卸し)

① 競技要領

荷役運搬作業の安全性を主体とし、基準操作技術については、減点方式により採点する。制限時間は5分とし、これを経過後は、5秒以内毎に5点を減点する。

② コース走行

運転競技用コースは、別紙2のとおりとする。

- ・スタート地点より、①～②へ前進走行して架台上の荷を取り卸し(2段取り)、③～④を後進する。
- ・その後、⑤より前進し、停止線 A にて一旦停止をした後⑥まで前進し、奥まで入れて停止する。
- ・次いで、⑦より後退し、停止線 B にて一旦停止した後⑧まで後進し、⑨～⑩を前進する。
- ・荷を架台上に積付け(2段積み)、⑪～⑫を後進でスタート地点にもどる。

③ 使用機種

「トヨタ」製の最大荷重2.5トン「カウンターバランス・フォークリフト」とする。

11. 順位の決定

(1) 総合得点(1,000点)の高い者をもって上位とする。

(2) 総合得点が同点の場合は、運転・点検・学科の順とする。

12. 表 彰

- (1) 一般の部、女性の部とも総合得点の第一位から第三位までの者には、支部長より「表彰状及び記念品」を、第一位には、副賞として“楯”を授与する。
- (2) 出場者に対し、参加賞を贈る。但し、入賞者は除く。
- (3) 一般の部、女性の部とも総合得点「第一位」の者を、全国大会出場選手として推薦する。

【※ 9月27日(土)・28日(日) 中部トラック総合研修センター】

13. 服装及び携行品

- (1) 服装は、努めて各事業所・所定の作業服を着用すること。
- (2) 携行品としては、安全帽・安全靴・点検用ハンマー
尚、雨天の場合は雨具を用意してくること。

14. 参加申込み

- (1) 参加申込みに際しては、別紙『申込書』の所定の欄に記入うえ、陸上貨物運送事業労働災害防止協会・岩手県支部あて申し込むこと。
- (2) 申込みの締め切りは、6月19日(木)までとする。

15. その他

不明な点がありましたら、下記にお問合せ下さい。

陸上貨物運送事業労働災害防止協会・岩手県支部

電 話 019-637-3287

FAX 019-638-5010

添付資料: 別紙1 「点検競技・作業開始前点検項目」

別紙2 「運転競技・運転競技コース」

別紙3 「運転競技・運転操作手順」

別紙4 「運転競技・停止線審査要領」

点検競技作業開始前点検項目

① 車両前面

1 フォークの変形、亀裂、損傷、取付け状態
2 バックレストの変形、亀裂、損傷、取付け
3 マストの変形、損傷
4 リフトチェーンの損傷、変形、左右の張り
5 リフトシリンダの油漏れ、傷、ホースの取付け状態

② 左前方

6 ティルトシリンダの油もれ、傷、ロット エンドのゆるみ
7 油圧ホースの油もれ、取付け状態

③ 左前輪

8 タイヤのき裂、異常磨耗、異物のかみこみ
9 リムボルト及びハブナット(クリップナット) のゆるみ

④ 左側面

10 ヘッドガードのがた、変形、損傷

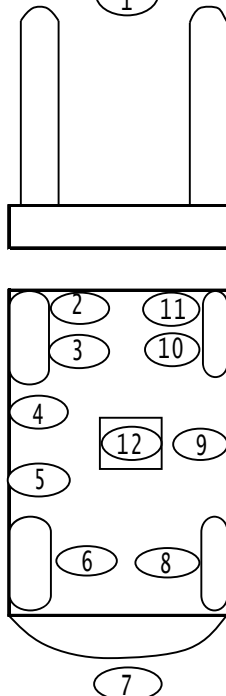
⑤ エンジンルーム

11 エンジンオイルの量、汚れ
12 バッテリ端子の取付け、液量
13 冷却水(リザーバータンク)の量
14 ブレーキオイルの量
15 ファンベルトのゆるみ

⑥ 左後輪

16 タイヤのき裂、異常磨耗、異物のかみこみ
17 リムボルト及びハブナット(クリップナット) のゆるみ

①



⑪ 右前方

25 ティルトシリンダの油もれ、傷、ロット エンドのゆるみ
26 油圧ホースの油もれ、取付け状態

⑩ 右前輪

23 タイヤのき裂、異常磨耗、異物のかみこみ
24 リムボルト及びハブナット(クリップナット) のゆるみ

⑨ 右側面

21 ヘッドガードのがた
22 作動油の量、汚れ(エンジンルーム内)

⑧ 右後輪

19 タイヤのき裂、異常磨耗、異物のかみこみ
20 リムボルト及びハブナット(クリップナット) のゆるみ

⑦ 後方

18 駐車地面に油もれ、水もれ、燃料もれ

⑫ -1 乗車 (エンジンカバーを閉)

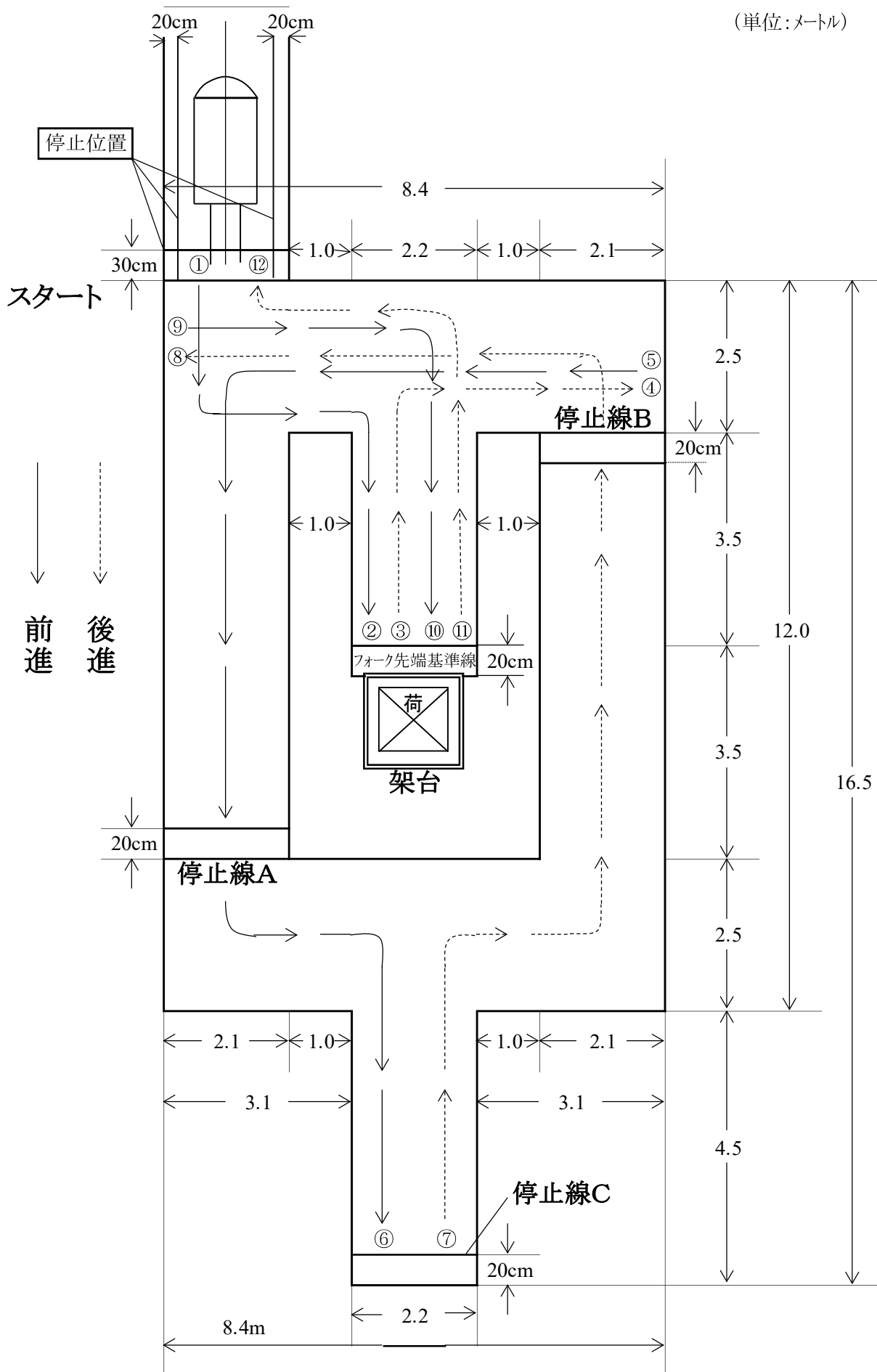
27 リフト及びティルトレバーのがた
28 駐車ブレーキの引きしろ又は踏力
29 ブレーキペダルの遊び、踏しろ、戻り
30 インチングペダルの遊び、踏しろ、戻り
31 ハンドルの遊び、がた
32 後写鏡の取付け、汚れ、写影

⑫ -2 エンジンスイッチを入れる

33 計器の作動
34 前照灯の点灯
35 後退灯の点灯
36 ブレーキランプの点灯
37 バックブザーの作動
38 方向指示器の点滅
39 クラクションの作動

運転競技コース

(単位:メートル)



運 転 操 作 手 順

No	運 転 操 作 手 順		注 意 事 項	
1	乗 車	〔注：乗車前のフォークリフトの周囲及び下部の安全確認は省略する〕 1 運転席「左横」に進み、両足を揃えて立つ 2 左手はヘッドガードの柱（握手）をにぎり、右手は座席の背もたれをにぎる 3 左足をステップ上に乗せて乗車する 4 着席後の座席を調整する 5 後写鏡の写影を調整する 6 シートベルトを着用する 7 各種レバーが中立位置にあるかを確認する 8 駐車ブレーキがかかっているかを確認する 9 エンジンキーを始動スイッチに差込む 10 ブレーキペダルを踏込む 11 エンジンキーを「START」位置まで回してエンジンを始動させる	各 操 作 手 順 共 通 事 項	1 前方、後方、側面等の安全確認は確実に実施する 2 前後進レバーを入れる前に駐車ブレーキを外さない 3 前後進レバーを操作するときは、必ずブレーキペダルを踏込む 4 駐車ブレーキの外し忘れをしない 5 走行中は左手でハンドルノブを握っていること 6 走行中右手をレバーの上に乗せない（膝の上に置いていること） 7 発進及び曲がり角進行時に進行方向（左右を含む）の安全確認をする（前後進とも） 8 フェンスとの接触、コースから脱輪をしない 9 空フカシ、エンスト、誤動作、前後進のやり直しをしない 10 急発進をしない 急ブレーキをかけない 11 コース上ではインチャングペダルは使わない。 12 方向指示器の操作は省略してもよい
2	発 進	1 フォークをリフトする（地上 5 ～ 1 0 cm） （注）計測開始 2 マストを後方一杯にティルトする（フォークの 高さは地上 1 5 ～ 2 0 cm） 3 前方及び側面の左右の安全を確認する 4 前後進レバーを前進に入れ、駐車ブレーキを外す 5 静かに発進する		1 リフトより先にティルトしない 2 マストを後ろ一杯にティルトする 3 フォークの高さが高過ぎないか （地上 2 0 cm 超） 4 フォークの高さが低過ぎないか （地上 1 5 cm 未満）

No	運 転 操 作 手 順		注 意 事 項
3	①→② 走 行	架 台 ま で の 走 行	
		1 前進で安全走行をする	1 フェンスとの接触注意
		2 架台の手前に来たら、徐行運転をする	2 最徐行
		3 架台上の積み荷パレットの中心線とフォークリフトの中心線を合わせ、ゆっくりと前進する	3 フォークの先端がフォーク先端基準線の内側にあること (20cm 以内)
		4 フォーク先端基準線で停止する	
		5 駐車ブレーキをかけて、前後進レバーを中立にする	4 積み荷パレットの中心とフォークの左右のずれを少なく (約10cm 以内)
4	取おろし	1 マストを垂直にする	1 荷に対してフォークを直角にする
		2 フォークをパレットの差込口に合うようにリフトする	2 マストをティルトしながらリフトしない
		3 前方の安全を確認し、前後進レバーを前進に入れて、駐車ブレーキを外す	3 2段取りをする
		4 静かに前進して、フォークの根元が10～20cm 残るように差し込み停止する	4 フォークを差し込む時パレットをこすらない
		5 駐車ブレーキをかけて、前後進レバーを中立にする	5 フォークを差し込む時パレットを突かない
		6 静かにリフトして止める。(パレット下面と架台上面の間隔を5～10cm にして止める)	6 架台にフォークリフトを接触させない
		7 安全確認をする(積み荷の安全度、荷崩れ、フォークの位置等)	
		8 後方の左右の安全を確認する	7 リフト時の高さが高過ぎない (パレット下面と架台面までの間隔を10cm 以上にしない)
		9 前後進レバーを後進に入れて、駐車ブレーキを外す	8 荷重のためパレットが下がるが直す必要なし
		10 静かに後進し、パレット端面と架台の端面が一致する位置にて停止する	9 パレット下面と架台が接触した状態でフォークリフトを移動させない
		11 駐車ブレーキをかけて、前後進レバーを中立に入れる	10 フォークでパレットをこすったり、パレットを引きずらない
		12 架台上にパレットを置く(フォークは、パレットの差込口の中間で止める)	
		13 前方の左右の安全を確認する	11 フォークを根元まで差し込む
		14 前後進レバーを前進に入れて、駐車ブレーキを外す	
		15 パレット端面がフォークの垂直部に接触するまで静かに前進し、停止する	

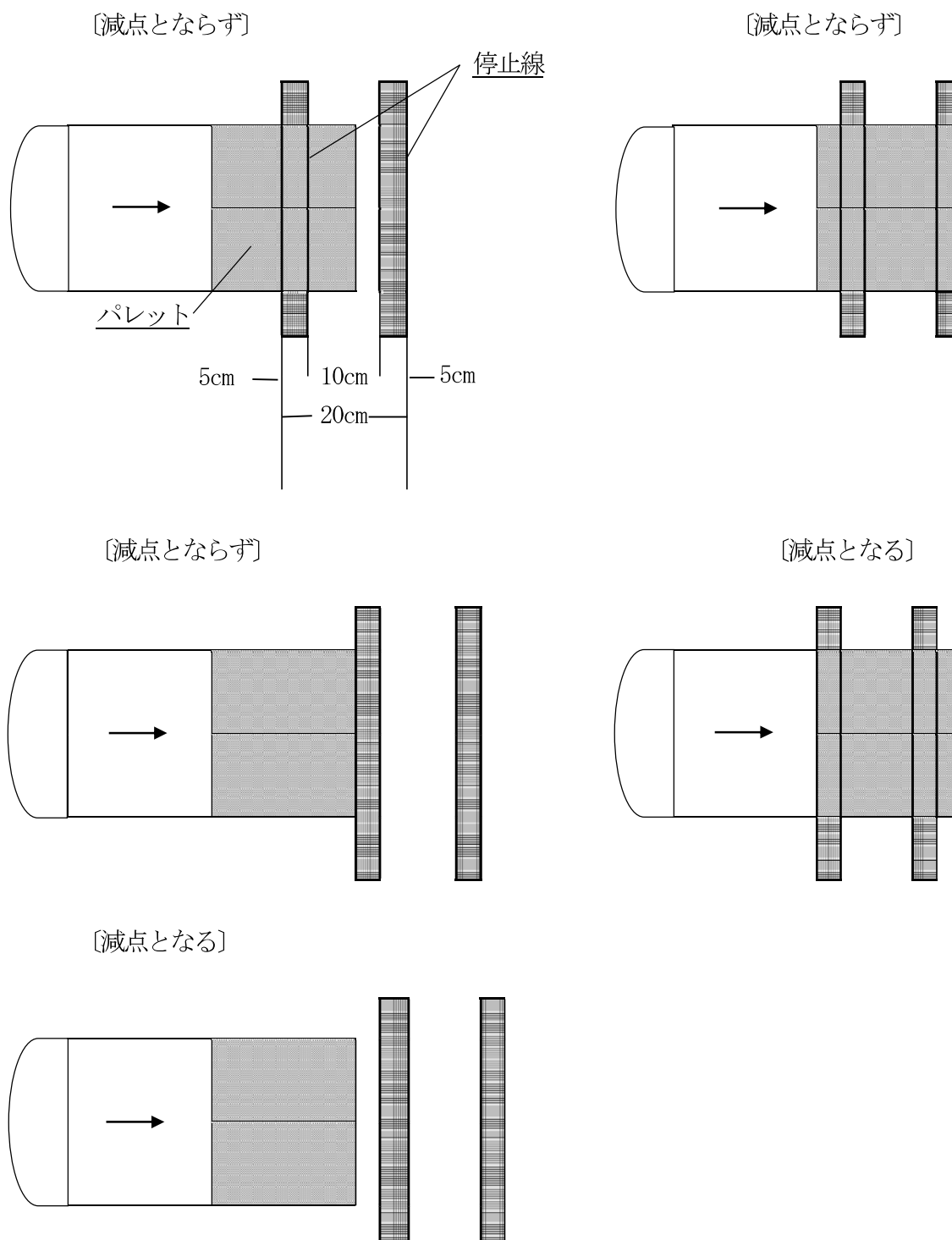
No	運 転 操 作 手 順		注 意 事 項
4	取 お ろ し	16 駐車ブレーキをかけて、前後進レバーを中立に入れる	12 荷をリフトした時は、常に荷の安定を確認する 13 パレット先端面がフォーク先端基準線の内側にあること（20cm 以内）
		17 静かにリフトして止める（パレット下面と架台上面の間隔を 5～10cm にして止める）	
		18 後方の左右の安全を確認して、前後進レバーを後進に入れる	
		19 駐車ブレーキを外し、パレット端面が架台に接触しない位置まで静かに後進し、停止する	
		20 駐車ブレーキをかけて、前後進レバーを中立に入れる	
		21 フォークを降下させる（パレット下面と床面の間隔を 5～10cm にして止める）	
		22 マストを後ろ一杯にティルトする	
5	③→④ 積 荷 後 進 走 行	停 止 線 A ま で の 走 行	
		1 後方の左右の安全を確認する	
		2 前後進レバーを後進に入れ、駐車ブレーキを外す	
		3 静かに後進し、④の位置で停止する	
		4 駐車ブレーキをかけて、前後進レバーを中立に入れる	
6	⑤より 停止線 Aまで 積 荷 前 進 走 行	1 前方の左右の安全を確認する	1 停止時の審査基準の詳細は別紙4を参照すること
		2 前後進レバーを前進に入れ、駐車ブレーキを外し、停止線Aまで前進する	2 一旦停止した後に前後の調整走行は行わないこと
		3 停止線に近づいたら徐行し、パレット先端が停止線A内に納まる位置で一旦停止する	3 ブレーキペダルは踏んでいること
		4 前後進レバーを中立に入れる	4 Aにおける一旦停止時間はおおむね3秒程度
7	停止線 Aより 停止線 Cまで 積 荷 前 進 走 行 と 積 荷 後 進 走 行	停 止 線 B ま で の 走 行	
		1 前方の左の安全を確認する	1 停止線Cの内側まで入れる 〔パレットの先端からフェンスまでの距離が離れすぎでないか（20cm 以内）〕 2 Bにおける一旦停止時間はおおむね3秒程度
		2 前後進レバーを前進に入れ、停止線Cの内側まで前進して停止する	
		3 駐車ブレーキをかけて、前後進レバーを中立にいれる	
		4 後方の左右の安全を確認し、前後進レバーを後進に入れて、駐車ブレーキを外し、停止線Bまで後進する	

No	運 転 操 作 手 順		注 意 事 項
	積 荷 後 進 走 行	5 停止線に近づいたら徐行し、カウンタウエイトの先端が停止線B内に納まる位置で一旦停止する 6 前後進レバーを中立に入れる	3 停止時の審査基準の詳細は別紙4を参照にすること 4 ブレーキペダルは踏んでいること
8	停止線 Bより ⑩まで 積 荷 後 進 走 行 ・ 積 荷 前 進 走 行	架 台 ま で の 走 行 1 後方の右の安全を確認する 2 前後進レバーを後進に入れ、後進で⑧まで安全走行し停止する 3 駐車ブレーキをかけ、前後進レバーを中立に入れる 4 前方の左右の安全を確認する 5 前後進レバーを前進に入れ、駐車ブレーキを外し前進にて⑩まで安全走行をする 6 架台の手前に来たら徐行運転をする 7 架台の中心線とフォークリフトの中心線を合わせ、ゆっくりと前進する 8 架台の手前で停止する 9 駐車ブレーキをかけ、前後進レバーを中心に入れる	1 パレット先端面がフォーク先端基準線の内側にあること (20cm 以内)
9	積付け	1 マストを垂直にする 2 パレットを静かにリフトして止める（パレット下面と架台上面との間隔を10～15cmする） 3 パレット下面と架台上面との間隔の適否を確認する 4 前方の左右の安全を確認する 5 前後進レバーを前進に入れ、駐車ブレーキを外し、静かに架台へ前進する 6 パレット端面と架台端面とが一致する位置で停止する 7 駐車ブレーキをかけ、前後進レバーを中立に入れる 8 パレットを静かに架台上に下ろす（フォークはパレットの差込口の間で止める） 9 後方の左右の安全を確認し、前後進レバーを後進に入れ、駐車ブレーキを外す	1 マストをティルトしたままリフトしない 2 パレットと架台との接触に注意する 3 走りながらリフトやティルトの操作をしない 4 フォークリフト前輪を架台に接触させない 5 2段取りとする 6 荷の安定を確認する

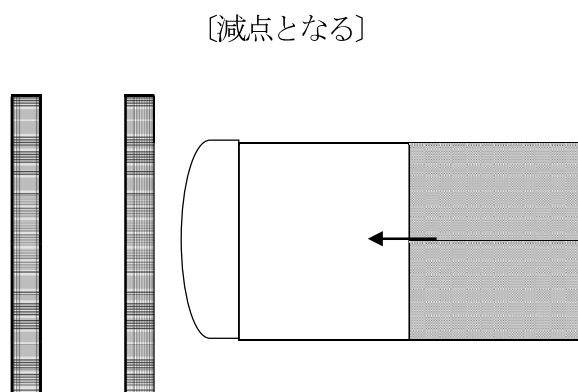
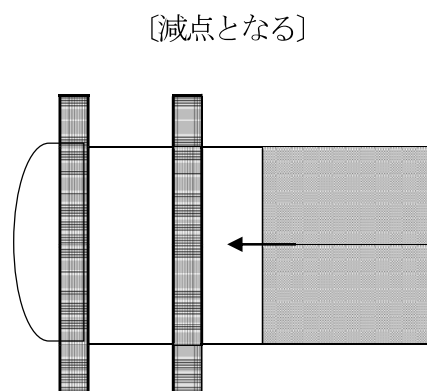
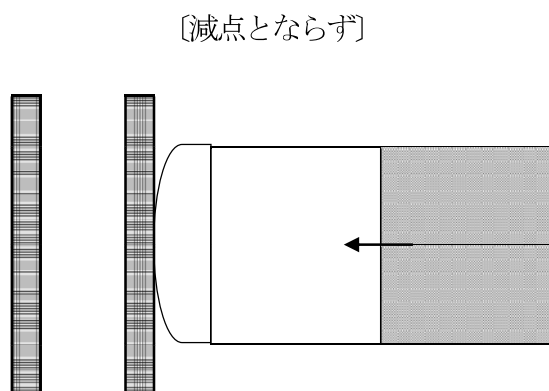
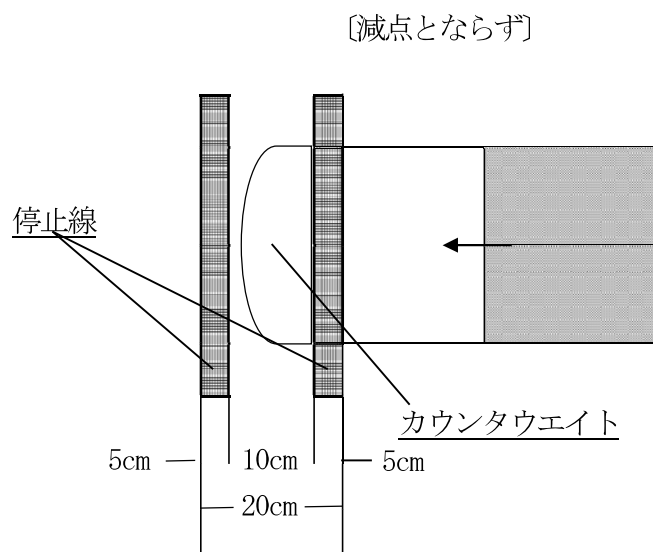
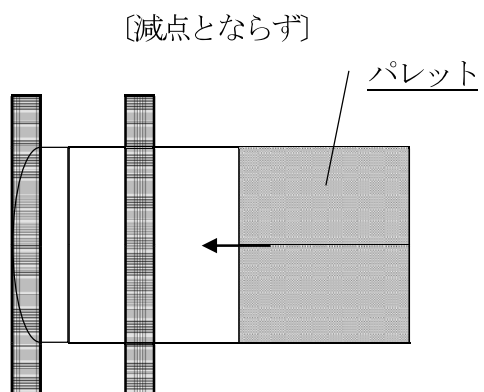
No	運 転 操 作 手 順		注 意 事 項
		10 フォーク垂直部とパレット端面の間隔が10～20cm 位になるまで後進する 11 駐車ブレーキをかけ、前後進レバーを中立に入れる 12 パレット下面と架台上面との間隔が5～10cm になるようにフォークをリフトする 13 前方の左右の安全を確認し、前後進レバーを前進に入れ、駐車ブレーキを外す 14 定位置（パレットを置く位置）まで前進して停止する 15 駐車ブレーキをかけ、前後進レバーを中立に入れる 16 パレットを静かに架台上に下ろす（フォークを差込口の間で止める） 17 後方の左右の安全を確認する 18 前後進レバーを後進に入れ、駐車ブレーキを外し、フォーク先端が架台に接触しない位置まで後進し、停止する 19 駐車ブレーキをかけ、前後進レバーを中立に入れ、フォークを地上5～10cm になるまで降下する 20 マストを一杯にティルト（後傾）する	7 フォークを抜くときパレットをこすらないようにする 8 パレットを置く位置は、白色テープでマーキングされている（1.20m×1.20m） 9 定位置の枠から出ないようにする 10 荷の安定を確認する 11 フォークがパレットをこすらないようにする 12 フォークの先端がフォーク先端基準線内にあること（20cm 以内） 13 フォークを下降する前にティルトしない
	スタート地点までの走行及び停止と下車		
10	⑪→⑫ 後進走行 ゴール 停車 下車	1 後方の左右の安全を確認する 2 前後進レバーを後進に入れ、駐車ブレーキを外し後進する 3 スタート地点で停止する 4 駐車ブレーキをかけ、前後進レバーを中立にする 5 マストを少し前にティルトし、フォークが軽く地面に接触するまで降下する 6 エンジンキーを「OFF」の位置まで回して、エンジンを止め、エンジンキーを抜く 7 左側の前後方向の安全を確認する 8 左手でヘッドガードの柱（握手）をにぎり、右手は座席の背もたれをもって、ゆっくりと後ろ向きにて下車する （注）計測終了は、両足がついた時 9 エンジンキーを審査員に手渡す	1 発進時フォークの高さが高過ぎないか（20cm 超） 2 停止位置不良（前後30cm 以上左右20cm 以上。白線で明示する） 3 飛び降りない 4 左側から降りる 5 標準時間の5分を越えないように

停止線審査基準

停止線A（前進）

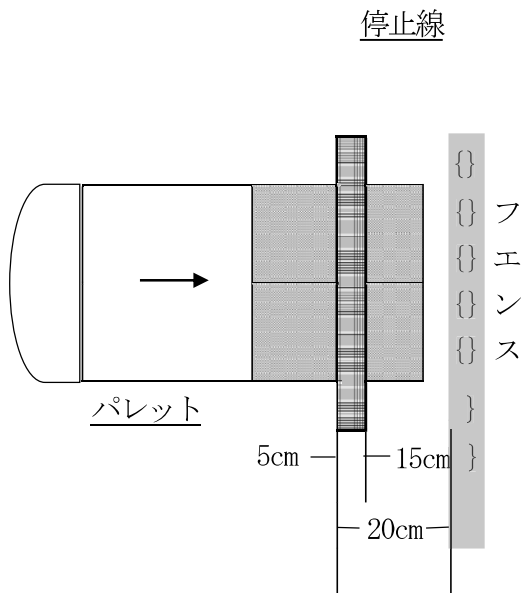


停止線B（後進）

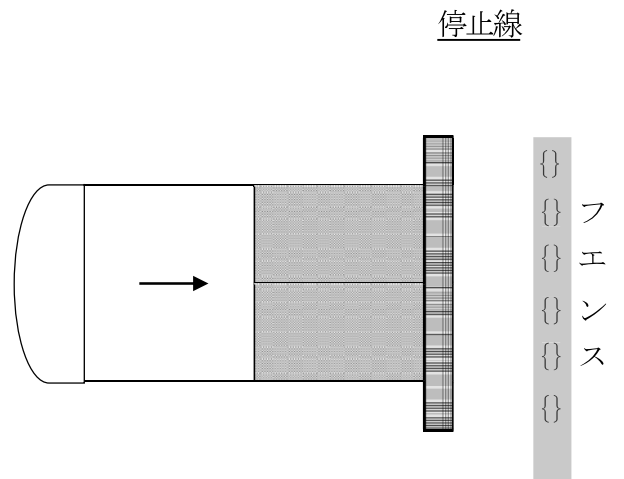


停止線C

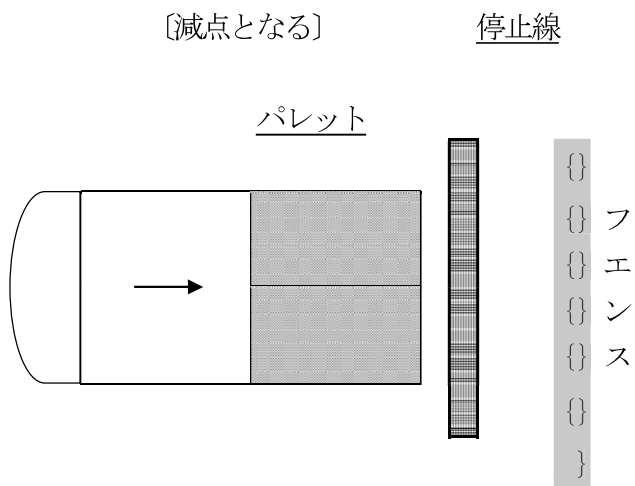
〔減点とならず〕



〔減点とならず〕



〔減点となる〕



〔減点となる〕

